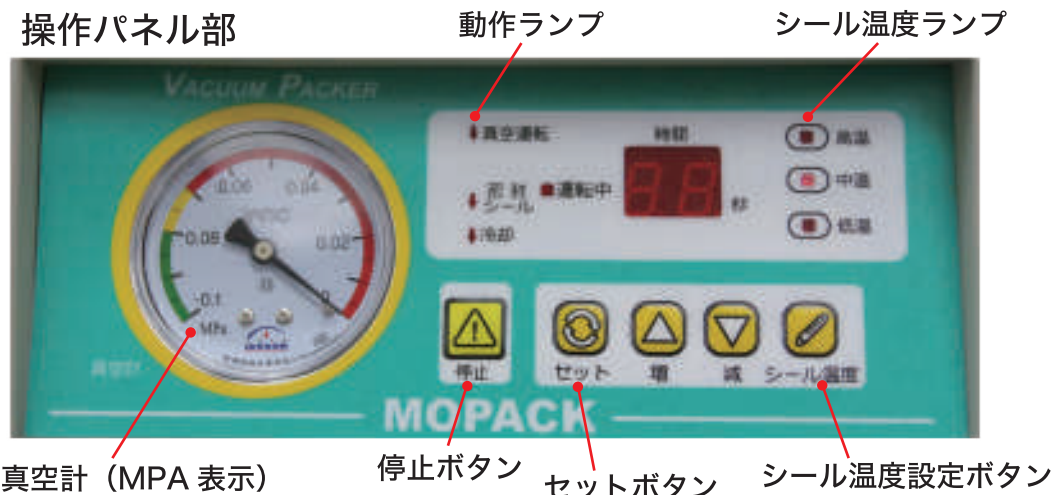


自動真空包装機 MOL-260 機能説明



操作パネル部



型番	MOL-260
消費電力	100V 50/60HZ ポンプ 370W ヒーター線 1050W
外形寸法	W335 x D495 x H340mm
チャンパー内寸法	W285 x D388 x H50+40 (計 90) mm
シール長	幅 10mm X 長さ 260mm
重さ	27Kg
ポンプ排出能力	8m/h ³
真空能力	< 1.00KPA



株式会社グランテクノ

TEL : 03-6658-5655

メンテナンス（真空ポンプオイルの交換）

重要

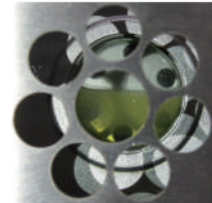
オイルは後ろの窓から見て、汚れていたら交換してください。

オイルの色が、紅茶色になったら交換時期です。

入れる量は、窓から見て半分ぐらいです。

オイルが汚れたまま使い続けると、必ずポンプが壊れます。

オイルを継ぎ足すのはやめて下さい。必ず交換してください。

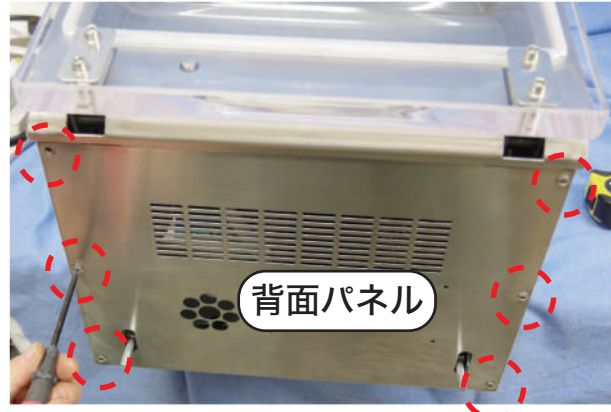


オイル窓

用意するもの：①ペットボトルなどの受け容器（廃油入れ） ②プラスドライバー
③10ミリのスパナ ④オイル差し ⑤新しい真空ポンプオイル



①機械の後ろを机から
10センチほど、はみ出させます。



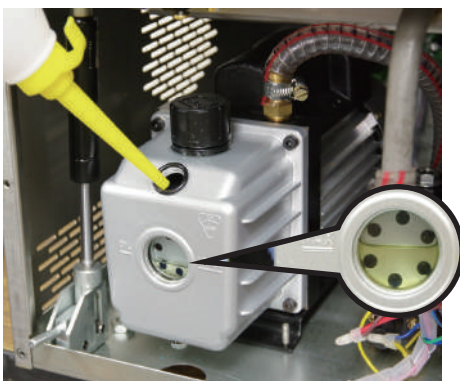
②背面パネルの6箇所のネジを
プラスドライバーで外し、
背面パネルを取り外します。



③ポンプ上の赤いキャップを、
反時計回りに回して外します。



④ポンプ下に廃油入れを用意してから、
ポンプ真下のドレンボルトを10ミリの
スパナで外し、オイルを抜きます。



⑤機械を平らな所に戻し、
オイルを少しずつ入れます。
(入れる量は、半分ほどです)

⑥オイルを入れたら、赤いキャップを戻し、
背面パネルの6箇所のネジを戻して完了です。

その他、覚えておくと便利な使い方、注意点など

操作パネル部



① シール温度設定ボタン

暖機運転するとき、カウントダウンが0になると、電熱線に電気が流れ、発熱します。

この際、ふたが開いた状態、つまり酸素がある状態だと、煙が出たり、発火する可能性があるため、0までやるならシール温度ボタンを何回か押して、ランプがどこにもついていない状態(切)にして、暖機運転をして下さい。

② 暖機運転

使い始めるとき、ふたをゆっくり下げてモーターが回ったところで止め、(完全にふたを閉めないで) 10秒程度モーターを回す。ふたを上げ5秒休む。この暖機運転の作業を2セット繰り返してから使い始めてください。

③ 停止ボタン

真空作業をスタートさせたが、やり直したいとき(ストップしたいとき)停止ボタンを押すと、シールせず、初めからやり直すことができます。

④ 表示パネル

□□のマークのまま、放置しないでください。(真空が終わってもふたを閉じたままの状態)
電磁弁の部品が壊れてしまいます。

e d という表示は、E N D (エンド) つまり作業が終わりましたというサインであり、エラーコードではありませんのでご安心ください。__ __ の表示も同じです。

分かりやすい真空包装機の使い方 1



①ふたを一番上まで（限界まで）持ち上げます。（カチッカチツと音がして、手を放してもふたが空いたままの状態にする。）



②機械の左側面にある、コンセントを差し、電源をONにします。



③右端のシール温度ボタンを押して、中温に設定します。



④袋に真空したいものを入れ、押さえのバーを袋の上にかぶせます。



⑤両手で体重を乗せるようにふたを閉め2、3秒押さえつけます。すると、自動的に空気を抜いていきます。



⑥真空時間が0になると、シールがされ、自動的にふたが開いて完成です。

分かりやすい真空包装機の使い方 2



下側のセットボタンを押す。

- 1 回押す→真空時間の調整（真空運転ランプ）
- 2 回押す→シール時間の調整（密封シールランプ）
- 3 回押す→冷却時間の調整（冷却ランプ）
- 4 回押す→E N D 表示（ランプが消え E d 表示）
（または _ _ 表示）



①真空時間の調整（空気を抜く時間）

真空運転ランプが付いている時に、
△▽で調整できます。
通常 40 ～ 45 秒前後で丁度いいです。



②シール時間の調整

袋の厚み、素材によって微調整します。
密封シールランプが付いている時、
△▽で調整します。
通常 1.2 ～ 1.5 で丁度いいです。

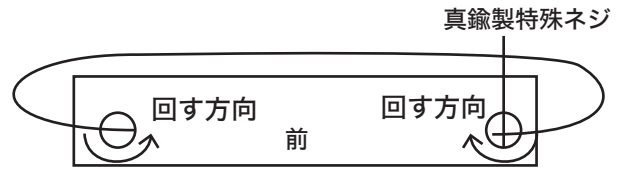
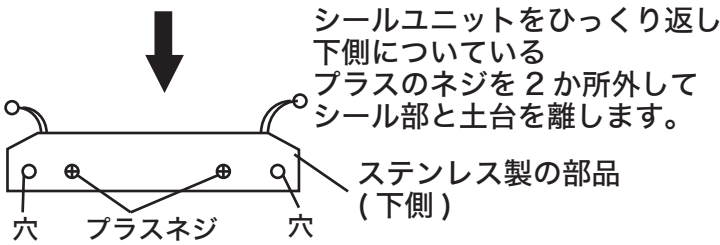
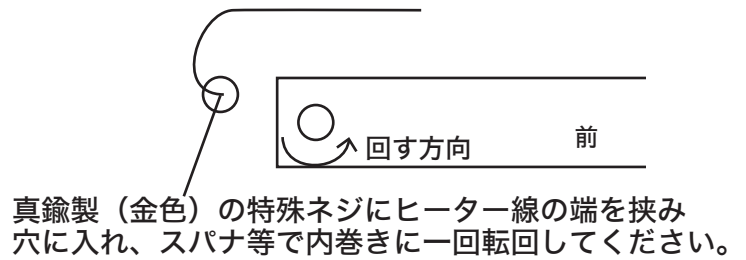
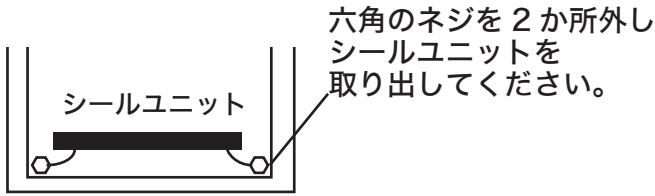
**注意：極端に 3.0 以上にしないでください。
（ヒーター線の寿命が短くなります。）**



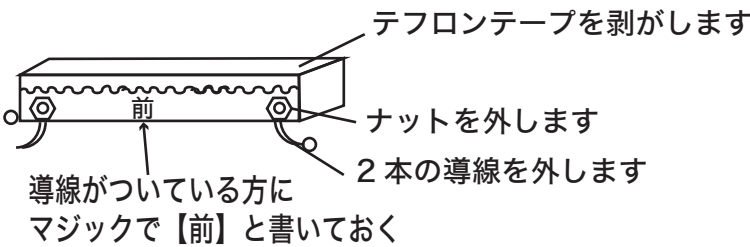
③冷却時間の調整。

袋の厚み、素材によって微調整します。
冷却ランプが付いている時、
△▽で調整します。
通常 2.0 で丁度いいです。

ヒーター線の交換方法



同じように反対側も挟んで、一回転回します。
※回転方向に注意すること！
交互に半回転ずつ回しながら、ヒーター線を
張らせます。
(引っ張りすぎると切れますので注意してください)
ヒーター線が十分張ったら、
テフロンテープを貼ります。



シールユニットを土台に戻します

